

# 1 からくさもよう かた き みち 唐草模様が語るブドウの来た道

ブドウと人類のつきあいは、とっても長いんだ。たぶん人間が道具を使いはじめたころには、もう野山のブドウをとって食べていたんだ。紀元前3000年ごろには、メソポタミア地方で栽培がはじまったとされているよ。また、ブドウは、皮についている酵母で自然に発酵してお酒になるから、ワイン(ブドウ酒)づくりも栽培とともにすぐにおこなわれたと考えられているんだ。紀元前500年ごろには、ギリシャでもブドウが栽培されて、ワインは、ギリシャ神話に欠かせないお酒になったよ。

## よ 酔わせる 神秘のフルーツ

そのままでも甘くてジューシーでおいしく食べられるだけでなく、かんたんにおいしいお酒になるブドウは、古代から人間にとっては、豊かさの象徴だったんだ。植物としても葉が大きくしげり、ツルをぐんぐんと伸ばして生長していく姿は、たくましく力強い生命力を感じさせたんだね。だから、古くから、ブドウは、神さまにささげられたり、神殿彫刻を飾る模様として、だいにされてきたんだよ。西洋の文化の大きな源泉となるギリシャ神話やキリスト教で、ブドウは、とても重要な役割を果たしているよ。

## みず 水がわりに飲まれたワイン

ブドウの原産地は砂漠だ。砂漠には水がないので穀物につくれないね。そこで貧弱な草を家畜に食べさせて、その肉などを食料にしたんだ。どうにも水不足のためのこの渴きを家畜の乳、血などとともに果物からえていたよ。でも甘すぎるブドウは飲料水のかわりにはならない。しかし、ブドウは、つぶすと発酵してすぐにワインになるんだ。ワインは甘くなくて、貯蔵もできるから乾燥地や水が悪いところでは貴重な飲料になったんだね。ワインは料理用の水がわりにも使われたよ。



## からくさ 唐草模様はシルクロードをゆく

ギリシャ神話やキリスト教ばかりでなく、イランなどでもブドウは、だいにされたよ。そのためブドウのツルや葉をかたどった唐草模様は、生命力を表すデザインとして、中央アジアから西洋やほかのアジアへと広まっていったんだ。やがて仏教にも影響をあたえて、中国を経て日本へも伝わっているんだ。正倉院には、唐草模様で飾った鏡が納められているし、薬師寺の薬師如来像の台座にはブドウの模様がついているよ。